



渡辺謙アメリカに行く “9・11テロ”に 立ち向かった日系人

放送日:2011年8月15日 放送時間:73分

対象校種 中学校 高校

対象教科 社会 道徳 総合

この番組の良さ

● 人権・自由・平等について考える

2001年の同時多発テロ直後、アメリカではアラブ系の人々への偏見・差別が高まりました。しかし、時の運輸長官ノーマン・ミネタさんは、アラブ系イスラーム教徒に対する空港での荷物チェックなどの、人種による選別・差別を厳禁しました。また、日系3世キャシー・マサオカさんの呼びかけを受け、多くの日系人たちがイスラーム差別に抗して行動を起こしました。人権・自由・平等について深く考えることができる番組です。

● 正しいことを貫く強さについて考える

「努力を怠らず正しい行動をしようとするのが、日本人の精神文化だ」と語るノーマン・ミネタさんは、幼少期に日本人強制収容所で理不尽な扱いを受け、過酷な生活を経験しました。アメリカを自由と平等を守る差別のない国にしたい…被害者への謝罪を求めてミネタさんが提出した法案は、支持を集め、政府を動かします。アメリカ政府は過ちを認め、強制収容への謝罪や補償を約束しました。正しいことを貫くミネタさんの心の強さに触れることで、子供たちの心を揺さぶることができます。

番組活用のポイント

● 「自分のこと」として捉える

生徒たちにとって、アメリカにおける日本人の強制収容や同時多発テロは、歴史上の出来事に過ぎないかも知れません。しかし、その背景にある人間の意識や行動の危うさは、決して過去のものではありません。移民や外国人労働者などは、国際社会のみならず日本国内においても、大きな課題となっており、学校における偏見や差別、いじめ、LGBTなどの問題も、決して他人事ではありません。本番組の活用には、日系人として全米本土で初の国会議員となったノーマン・ミネタさんの行動を、遠い世界の昔の話と捉えるのではなく、自分たちの周りにも起きうる「自分のこと」として捉えることが大切です。

● 歴史の学習や社会問題と関連付ける

戦争やテロが生み出す憎しみや恐怖心は、人々の差別や偏見の意識を高めます。そして、その差別や偏見は受けた人の心の傷となって永遠に残ります。ノーマン・ミネタさんの言動や、忘れたくない過去の記憶を語ることを決意した日系人たちの思いをより深く理解するためには、戦争やテロの原因や背景を学んでおくことが必要となります。本番組を活用するためには、歴史で学習したことや世界中で起きているさまざまな社会問題と関連付けると良いでしょう。

● 人権感覚を磨く

本番組の活用により、自分の中にある外国人への差別・偏見の意識と向き合い、克服していこうとする気持ちを養っていくことが期待できます。差別や偏見に対する問題意識を高め、番組を通して話し合いを深めていく際、思考のベースが、愛国心や日本人の精神性といったことに偏り過ぎないようにすることが肝要です。特に、授業を行う際には、イスラーム教徒に限らず、外国人や、人種・宗教・習慣などへの適切な理解を促すことが必要となります。



執筆者
沼津市教育委員会
指導主事 加納 真